

ブラジル中銀による年内の利下げ観測が高まる

- ブラジル中銀は6月18-19日の金融政策委員会で金利据え置きを決定。中銀は先行きの物価見通しを下方修正。
- 年金改革が年内に議会で承認されれば、利下げ余地が生まれる見込み。市場はすでに年内3回の利下げを織り込む。
- 利下げ観測の高まりからブラジル2年国債利回りは6%台前半へ低下。ボエスパ指数は初の10万ポイント台へ到達。
- 近年の金利低下により、国内投資家の株式投資が活性化の兆し。今後の利下げはブラジル株にとって追い風要因に。

ブラジル中銀は政策金利の据え置きを決定

ブラジル中央銀行は6月18-19日の金融政策委員会(COPOM)において、大方の市場予想通り、政策金利を6.50%に据え置く決定を下しました(図1)。

ブラジル中銀は今回のCOPOMで先行きの物価見通しを下方修正しました(2019年末のインフレ予想は5月時点の前年比+4.1%から前年比+3.6%へ引き下げ)。4月には天候不良による食品価格上昇から一時的に物価上昇圧力が増したものの、足元ではすでに天候要因は一巡し、景気の鈍さから物価低下圧力が顕在化しつつあります。

年金改革が成立すれば利下げの余地が生まれる

ブラジル中銀は先行きのリスク要因の中でも、とりわけ年金改革の審議の行方を注視する姿勢を示しています。現在、下院特別委員会で審議中の年金改革法案が年内に下院と上院で承認されることになれば、財政リスクの後退により、ブラジル中銀にとっては景気とインフレを下支えするための利下げ余地が生まれると見込まれます。

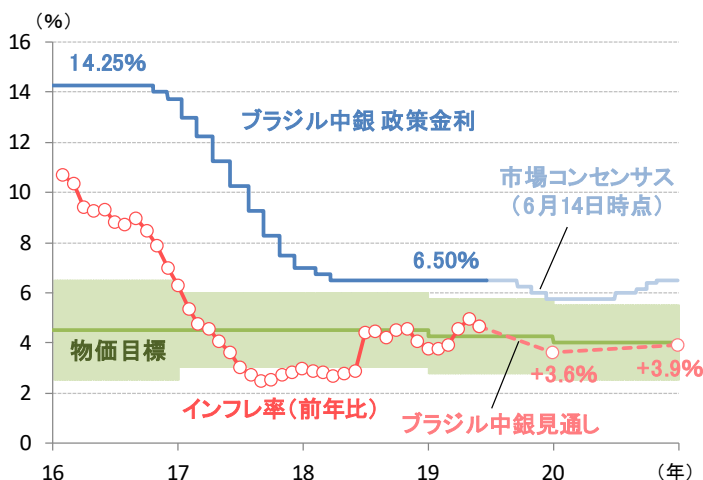
実際、足元の市場ではブラジル中銀による利下げ観測が高まりはじめています。ブラジル中銀集計の市場コンセンサス(6月14日時点)では、2019年後半に3回の利下げが実施され、政策金利は2019年末には5.75%まで引き下げられると予想されています(図1)。

利下げ観測増す中、ボエスパ指数は最高値更新

市場での利下げ観測の高まりから、ブラジル2年国債利回りは6%台前半まで低下が進んでいます(図2)。ブラジルでは近年の国債利回りの低下により、国内投資家によるブラジル株への投資が活性化する兆しがみられます。

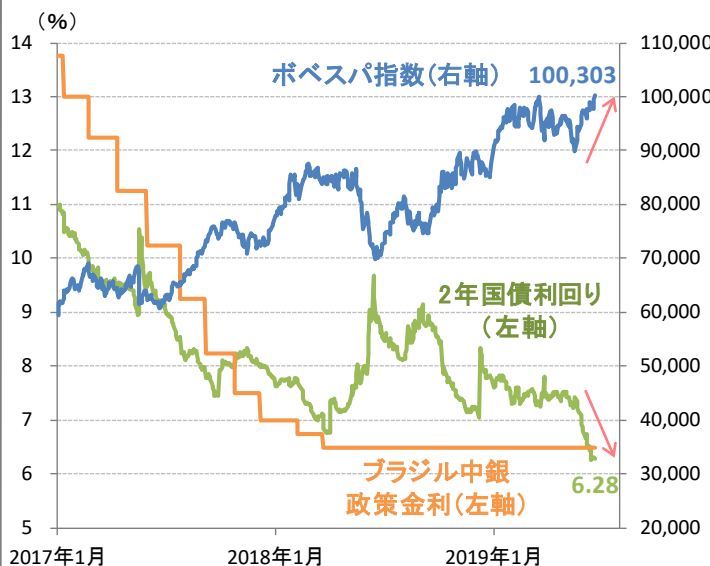
6月19日にはボエスパ指数は終値ベースでは初の10万ポイント台に到達しました。年金改革審議の進展をきっかけにブラジル中銀の利下げが現実的となれば、ブラジル株式市場には金利低下の面から追い風となりそうです。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)
 (期間)政策金利:2016年1月1日~2019年6月19日
 拡大消費者物価指数(IPCA):2016年1月~2019年5月
 (注)ブラジル中銀のインフレ見通し(市場シナリオ)は、政策金利と為替レートの予想前提に市場コンセンサスを使用したもの。

図2:ブラジルのボエスパ指数と2年国債利回り



(出所)ブルームバーグ (期間)2017年1月2日~2019年6月19日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。